

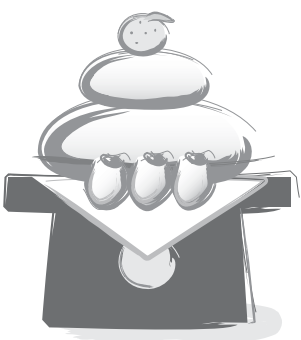


季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第二号〜

小寒しょうかん

一月六日



寒の入り、鏡開き

小寒。寒かんの入り。この日から節分までを「寒」といいます。「松の内」の七日も過ぎて、世の中は日常の暮らしに戻りつつありますが、内宮前はまだまだ初詣の人々で大賑わい、正月気分が漂います。

しかしながら、内宮前の各家では「松過まつすぎ」の七日の夜、松飾りをすっきりと取り去ります。伊勢の玄関は一年中しめ縄が飾られています。家の四隅や窓などに張られたトンボと呼ばれる蝶結びのしめ縄は、「松過」には取り払われる慣わしなのです。

また、鏡開きも十一日より七日という家が多いようです。床の間や神棚に「鏡餅」をお供えするのはもちろん、内宮前ではミカンと串柿で飾り付けした小さい餅を「節せち」と呼び、台所や各部屋にいてねいに飾ります。中には電話やパソコンにもお供えしているお宅があり、そこでは「節」を二十個用意するそうです。掃除して清めたところへ「節」を飾り、新年を迎える気持ちを込めるのだとか、新年を迎える厳かな心が内宮前には伝わっていました。

ところで、堅くなった「節」の良い料理法を教わりました。ばらばらに割った餅を二、三日水に漬けて(水は毎晩かえる)、ふやかしたものをフライパンでふたをして焼くと、柔らかくてふわつとなるそうです。黒砂糖やきな粉をつけて食べる、「それはおいしいのよう」と言う幸せそうな顔。今年はずせひとも試してみたいもの。

正月の歳神さまにお供えした餅のお下がりをいただく儀式の「鏡開き」。餅を食べた者には力が授けられると伝わる習慣です。

文 千種清美